



園だより

さつき
5月(皐月)号

令和8年4月30日
千代田区立お茶の水幼稚園
園長 伊藤 栄司



<http://www.schoolweb.ne.jp/chiyoda/ochanomizu-k>

園長 伊藤 栄司

お手伝い

新緑がまぶしく、さわやかな風が心地よい季節となりました。錦華公園や校庭の木々も鮮やかさを増し、子どもたちが外で伸び伸びと遊ぶ姿に、5月ならではの生命力を感じます。

新しいクラスや園生活にも少しずつ慣れ、子どもたち一人ひとりが自分のペースで毎日を過ごしています。先日、園服のボタンが取れなくて困っている3歳さんがいたので、手伝ってあげました。「手伝ってください。」ときちんとお願いでき、外してあげると「ありがとう」と言えました。自分でできなくても、何とか解決しようとする姿勢が身につけているなど感心した一幕です。

お手伝いと子供の成長

さて、先ほどの例は、私が子どものお手伝いをしてあげたという話ですが、子どもたちはお家でお手伝いをしていますか？お手伝いと聞くと、「まだ早いのでは？」「忙しいから自分でやったほうが早い」と感じる場面もあるかもしれません。しかし、幼児期のお手伝いには、単なる作業以上の大切な育ちがたくさんつまっています。

やってみたくから生まれる探求心

お手伝いは、生活の中で自然に生まれる行為です。大人のように完璧にはできなくても、子どもたちは“やってみたく”と気持ち強くもっています。テーブルを拭く、洗濯物を運ぶ、靴をそろえるなど、小さな一つ一つの行動は、子ども自身が「家族の一員として役に立っている」との実感につながります。そして「やりたい」「できた」と感じた心は、自己肯定感を育て、次の意欲へとつながる大切なエネルギーになります。

また、お手伝いは手や身体を動かすだけでなく、観察力や思いやりの芽を育てます。大人がどんな気持ちで家事をしているのかを感じ取ったり、「どうしたらうまくできるかな？」と考えたりすることが、子どもたちの想像力や判断力を育てるきっかけにもなります。さらに、家族の会話が生まれることも魅力のひとつです。「ありがとう」「助かったよ」という言葉をかけてもらう経験は、子どもにとって何よりの喜びです。

ひまわり組のお手伝い

5歳児のひまわり組さんは、年長児として園の様々な行事のお手伝いをしています。例えば各教室を回ってお休みの人数を聞きに行くお休み調べ、お誕生日会の会場準備や司会、ウサギのララちゃんやかめきちのお世話など、毎日、たくさんのお手伝いを涼しい顔でこなしています。背景には、“やってみたく”を引き出す担任の工夫があります。

例えばウサギのララちゃんのお世話の仕方は、ばら組さんの時に、前年のひまわり組さんに教えてもらいました。また、その時、担任は「ひまわり組さんは上手にお世話ができてすごいね」とみんなに聞こえるように褒め、お手伝いしたい気持ちをじっくり育てていきました。「早くお手伝いしたい!」と思わせる工夫の一つです。

ご家庭では、やりたそうな顔をしているときにチャンスです。忙しい日々の中で、つい大人が先に動いてしまうこともあると思いますが、子どもたちの“やりたい気持ち”を見逃さずチャレンジさせることで、大きな成長を感じることが出来ます。

小さなお手伝いから

5月は、家庭でも園でも、新しい生活リズムが安定し始める時期です。ぜひこの機会に、親子で楽しめる小さなお手伝いを見つけてみてください。季節の食材と一緒に運んでみる、洗濯物をたたむときに“ふわふわ”を感じてみる、靴をそろえてお散歩に出かけるなど、日々の積み重ねが、子どもたちの豊かな成長につながります。